

## 第2回衛星測位に関するワーキンググループ 議事要旨

### 1 日 時

令和6年12月11日(水) 10:00~11:10

### 2 場 所

オンライン会議 (Teams 会議)

### 3 出席者

#### (1) 委 員

中須賀座長、白坂委員、片岡委員、小川委員、小暮委員

#### (2) オブザーバ

日本経済社会推進協会・坂下常務理事、情報通信研究機構・門脇主席研究員、海上・港湾・航空技術研究所・坂井領域長、中部大学・海老沼教授、東京海洋大学・久保教授、宇宙航空研究開発機構・瀧口理事、東京大学・五十里准教授、麗澤大学・柴崎副学長

#### (3) 事務局 (内閣府宇宙開発戦略推進事務局)

三上参事官、長谷参事官、伊藤参事官補佐

#### (4) 説明者

株式会社アークエッジ・スペース保田経営企画室長

### 4 議事要旨 (○: 意見等)

#### (1) 宇宙技術戦略(衛星測位部分)の改訂について

事務局から資料 1-1, 1-2 に基づき、保田経営企画室長から資料 1-3 に基づいて説明が行われ、委員から以下の意見があった。

- LEO-PNT は、GNSS の脆弱性解消に向けての取組であり、将来的には既存 GNSS に依存することなく、LEO-PNT 単独で運用出来るように考えていく必要がある。他方、実証や周波数確保の観点からは、段階的に実証するというスピード感も重要である。
- LEO-PNT をユーザに定着させるためには、衛星と地上をセットで技術課題を設定する必要がある。ユーザ受信機のサイズというところも考慮に入れる必要がある。
- 地上も含めた様々な観点を盛り込んだ、将来的なシステム構築のロードマップが重要。どのような道筋であれば目標を達成できるのか、大局的な議論が必要。
- これまでの GPS 受信機産業の発展においては情報公開が重要であった。抗たん性の具体化に向けて、産業の発展性と安全保障のバランスを考慮した情報の提供が必要。

(2) 準天頂衛星 6 号機の打上げについて  
事務局から資料 2 に基づき、説明が行われた。

以上